

奈良工業高等専門学校				グローバル工学協働教育プログラム(GECEP) (ベーシックコース)								開講年度				令和02年度 (2020年度)											
学科到達目標																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q								
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0001	履修単位	1	1															朴 槿英						
一般	選択	異文化交流Ⅰ	0002	履修単位	1	集中講義															朴 槿英						
一般	選択	海外協働研修Ⅰ	0003	履修単位	1	集中講義															松井 良明, 朴 槿英						
一般	選択	グローバルチャレンジ	0004	履修単位	1	集中講義															朴 槿英						
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0005	履修単位	1				1	1											朴 槿英						
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0006	履修単位	1				1	1											朴 槿英						
一般	選択	異文化交流Ⅱ	0007	履修単位	1				集中講義												朴 槿英						
一般	選択	海外協働研修Ⅱ	0008	履修単位	1				集中講義												松井 良明, 朴 槿英						
一般	選択	グローバルチャレンジ	0009	履修単位	1				集中講義												朴 槿英						
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0010	履修単位	1							1	1														
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0011	履修単位	1							1	1														
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0012	履修単位	1							2															
一般	選択	異文化交流Ⅲ	0013	履修単位	1							集中講義															
一般	選択	海外協働研修Ⅲ	0014	履修単位	1							集中講義															
一般	選択	グローバルチャレンジ	0015	履修単位	1							集中講義															
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0016	履修単位	1							2									Leigh McDo well						
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0013	履修単位	1										1	1											
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0014	履修単位	1									1	1												
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0015	履修単位	1									2													
一般	選択	異文化交流Ⅳ	0016	履修単位	1									集中講義													
一般	選択	海外協働研修Ⅳ	0017	履修単位	1									集中講義													
一般	選択	グローバルチャレンジ	0018	履修単位	1									集中講義													
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0019	履修単位	1								2														
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0015	履修単位	1												1	1									
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0016	履修単位	1												2										
一般	選択	異文化交流Ⅴ	0017	履修単位	1												集中講義										
一般	選択	海外協働研修Ⅴ	0018	履修単位	1												集中講義										
一般	選択	グローバルチャレンジ	0019	履修単位	1												集中講義										
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0020	履修単位	1												2										

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 指定コースにおける学習レベル		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。	自学自習を行い、指定のコースを修了できた。	自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	異文化交流 I
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. シンガポール人学生の受入準備のための活動 学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、シンガポール学生の受入準備活動を行う。 3. シンガポール人学生受入活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			

後期	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. シンガポール人学生の受入準備のための活動 学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、シンガポール学生の受入準備活動を行う。 3. シンガポール人学生受入活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	授業参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	海外協働研修 I
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告会発表が参考となる。				
担当教員	松井 良明,朴 槿英				
到達目標					
・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。 ・英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, 一定のコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、一定のコミュニケーションを図ることができる。		英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、ある程度コミュニケーションを図ることができる。		英語をはじめとする、母語以外の外国語を使ったコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	グローバル化が叫ばれている現在, 海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流プログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, 国際的な視野の涵養, 異文化に対する意識の向上, 学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校が実施する国際交流プログラムの他, 他機関主催の海外派遣プログラムなどにおいて, 研修先で用意された研修内容を体験することになる。 なお, 研修先においては各自が目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校主催の海外派遣に対する事前準備 (研修内容の習得のために必要な英語能力および派遣国に関する基礎知識を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては、海外研修で求められる英語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。海外派遣国に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、海外研修を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 夏季休業期間中もしくは学校に認められた期間 2. 実施期間 5 日間以上および合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 (国外) 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」を提出する。 研修報告会 (12月頃予定) において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる ・英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, 一定のコミュニケーションを図ることができる	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			

後期		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	グローバルチャレンジ
科目基礎情報						
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	1		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	Original Handouts					
担当教員	朴 槿英					
到達目標						
1. 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現する練習をすることができる。 2. 特別講演や異文化交流プログラムおよび英語コミュニケーション集中講義などを通じて、グローバル社会に対する理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
グローバルコミュニケーションスキル	積極的かつ流暢な英語でコミュニケーションをすることができる。		英語で概ねコミュニケーションをすることができる。		英語でコミュニケーションをすることができない。	
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	グローバル教育センターが主催するイベント（特別講演会、国際交流報告会、異文化理解セミナーなど）に参加し、英語での講演聴講を通じて、諸外国の文化や現代世界の社会的諸課題について学び、グローバルエンジニアに必要な教養を身につける。					
授業の進め方・方法	グローバルエンジニア育成を目的とする特別講演会、国際交流報告会、異文化理解セミナーの他、英語コミュニケーションに特化した集中講義等へ積極的に参加し、毎回の学習内容についてアンケートおよびコメントカードを作成すること。					
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界史、世界文化、現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、外国の文化やグローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 異文化に対するオープンマインド、基礎的な英語コミュニケーションのフレーズを事前に習得するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：各講演やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。基礎的な英語コミュニケーションの練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ知識と教養に関して、英文報告書を作成すること。					
学修単位の履修上の注意						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	後期集中開催（以下のイベント内容参照）		各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習およびコメントカードを作成することができる。	
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週	イベントの開催情報については学生課グローバル掲示板およびグローバル教育センターHPに随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板とHPを確認すること。 単位認定に関してグローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。		英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 諸外国の歴史や文化、現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。	
		2週	令和2年度第1回異文化交流会 ＊留学経験者との交流会		異文化について理解を深めることができる。	
		3週	令和2年度第1回国際交流報告会		国際文化を通じて学んだ知識を共有することができる。	

		4週	令和2年度第1回特別講演会 *招待講演：英語コミュニケーション能力の向上について	英語コミュニケーション能力を高める学習法について理解することができる。
		5週	令和2年度第1回異文化理解セミナー	異文化に対する柔軟なマインドを育成することができる。
		6週	英語コミュニケーション集中訓練① *100 English Conversations Practice	基礎英会話フレーズに関する集中訓練ができる。
		7週	英語コミュニケーション集中訓練② *100 English Conversations Practice	基礎英会話フレーズに関する集中訓練ができる。
		8週	グローバルウェビナー参加①	アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
	4thQ	9週	グローバルウェビナー参加②	アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		10週	令和2年度第2回異文化交流会	異文化について理解を深めることができる。
		11週	令和2年度第2回特別講演会 *招待講演：地球環境問題とグローバルマインドについて	地球環境問題とグローバルマインドについて理解することができる。
		12週	Intensive English Communication Skills Training ①（集中講義）	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		13週	Intensive English Communication Skills Training ②	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		14週	Intensive English Communication Skills Training ③	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		15週	派遣留学生成果報告会&留学生交流会	留学を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		参加活動報告	完成度	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 指定コースにおける学習レベル		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。	自学自習を行い、指定のコースを修了できた。	自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			

		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
		自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計	
総合評価割合		60		40	100	
基礎的能力		60		40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅡ
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト (ALC NetAcademy Next) などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル (英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上) に到達することを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験 (実用英検) などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件 (告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況 (学習内容及び学習時間等) を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目: 英語アクティブラーニングⅠ 学習指針: 英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習: 学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習: 英語資格試験を受験し、想定レベル (英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上) に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	異文化交流Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができる。		積極的に海外学生との交流を図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. シンガポール人学生の受入準備のための活動 学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、シンガポール学生の受入準備活動を行う。 3. シンガポール人学生受入活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			

後期	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. シンガポール人学生の受入準備のための活動 学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、シンガポール学生の受入準備活動を行う。 3. シンガポール人学生受入活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	授業参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	海外協働研修Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告会発表が参考となる。				
担当教員	松井 良明,朴 槿英				
到達目標					
・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。 ・英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, 一定のコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。	異文化に対する理解がある。自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。	異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について、紹介できない。	
評価項目2		英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、一定のコミュニケーションを図ることができる。	英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、ある程度コミュニケーションを図ることができる。	英語をはじめとする、母語以外の外国語を使ったコミュニケーションを図ることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	グローバル化が叫ばれている現在, 海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流プログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, 国際的な視野の涵養, 異文化に対する意識の向上, 学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校が実施する国際交流プログラムの他, 他機関主催の海外派遣プログラムなどにおいて, 研修先で用意された研修内容を体験することになる。 なお, 研修先においては各自が目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校主催の海外派遣に対する事前準備 (研修内容の習得のために必要な英語能力および派遣国に関する基礎知識を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては、海外研修で求められる英語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。海外派遣国に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、海外研修を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 夏季休業期間中もしくは学校に認められた期間 2. 実施期間 5 日間以上および合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 (国外) 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」を提出する。 研修報告会 (10月頃予定) において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる ・英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, 一定のコミュニケーションを図ることができる	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			

後期		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	グローバルチャレンジ
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	2		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	Original Handouts					
担当教員	朴 槿英					
到達目標						
1. 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現する練習をすることができる。 2. 特別講演や異文化交流プログラムおよび英語コミュニケーション集中講義などを通じて、グローバル社会に対する理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
グローバルコミュニケーションスキル	積極的かつ流暢な英語でコミュニケーションをすることができる。		英語で概ねコミュニケーションをすることができる。		英語でコミュニケーションをすることができない。	
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	グローバル教育センターが主催するイベント（特別講演会、国際交流報告会、異文化理解セミナーなど）に参加し、英語での講演聴講を通じて、諸外国の文化や現代世界の社会的諸課題について学び、グローバルエンジニアに必要な教養を身につける。					
授業の進め方・方法	グローバルエンジニア育成を目的とする特別講演会、国際交流報告会、異文化理解セミナーの他、英語コミュニケーションに特化した集中講義等へ積極的に参加し、毎回の学習内容についてアンケートおよびコメントカードを作成すること。					
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界史、世界文化、現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、外国の文化やグローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 異文化に対するオープンマインド、基礎的な英語コミュニケーションのフレーズを事前に習得するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：各講演やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。基礎的な英語コミュニケーションの練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ知識と教養に関して、英文報告書を作成すること。					
学修単位の履修上の注意						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	後期集中開催（以下のイベント内容参照）		各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習およびコメントカードを作成することができる。	
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週	イベントの開催情報については学生課グローバル掲示板およびグローバル教育センターHPに随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板とHPを確認すること。 単位認定に関してグローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。		英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 諸外国の歴史や文化、現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。	
		2週	令和２年度第１回異文化交流会 ＊留学経験者との交流会		異文化について理解を深めることができる。	
		3週	令和２年度第１回国際交流報告会		国際文化を通じて学んだ知識を共有することができる。	

		4週	令和2年度第1回特別講演会 *招待講演：英語コミュニケーション能力の向上について	英語コミュニケーション能力を高める学習法について理解することができる。
		5週	令和2年度第1回異文化理解セミナー	異文化に対する柔軟なマインドを育成することができる。
		6週	英語コミュニケーション集中訓練① *100 English Conversations Practice	基礎英会話フレーズに関する集中訓練ができる。
		7週	英語コミュニケーション集中訓練② *100 English Conversations Practice	基礎英会話フレーズに関する集中訓練ができる。
		8週	グローバルウェビナー参加①	アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
	4thQ	9週	グローバルウェビナー参加②	アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		10週	令和2年度第2回異文化交流会	異文化について理解を深めることができる。
		11週	令和2年度第2回特別講演会 *招待講演：地球環境問題とグローバルマインドについて	地球環境問題とグローバルマインドについて理解することができる。
		12週	Intensive English Communication Skills Training ①（集中講義）	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		13週	Intensive English Communication Skills Training ②	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		14週	Intensive English Communication Skills Training ③	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		15週	派遣留学生成果報告会&留学生交流会	留学を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		参加活動報告	完成度	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員					
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト (ALC NetAcademy Next) などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル (英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上) に到達することを目指す。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 指定コースにおける学習レベル		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。	自学自習を行い、指定のコースを修了できた。	自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験 (実用英検) などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件 (告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況 (学習内容及び学習時間等) を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0011		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員							
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト (ALC NetAcademy Next) などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル (英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上) に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験 (実用英検) などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。					
授業の進め方・方法		「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件 (告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況 (学習内容及び学習時間等) を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。					
注意点		英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目: 英語アクティブラーニングⅠ 学習指針: 英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習: 学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習: 英語資格試験を受験し、想定レベル (英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上) に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。					
学修単位の履修上の注意							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について: ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。			・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。	
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					

		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計	
総合評価割合	60		40	100	
基礎的能力	60		40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	異文化交流Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員					
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
異文化理解力		異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。	
グローバル・コミュニケーション力		異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢で国際交流プログラムに参加し、英語による日本文化と学校紹介、海外学生とのコミュニケーションを通してグローバル感覚を身につける。				
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における3つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、海外学生との国際交流プログラムにおいて学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をポスターにまとめる。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. シンガポール人学生の受入準備のための活動 学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、シンガポール学生の受入準備活動を行う。 3. シンガポール人学生受入活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			

後期	3rdQ	1週	1. 後期集中講義（受け入れ活動の事前準備） 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 2. シンガポール人学生の受入準備のための活動 学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、シンガポール学生の受入準備活動を行う。 3. シンガポール人学生受入活動への参加 4. 報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 5. 国際交流プログラム参加報告会の実施	1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	課題提出	授業参加・評価	提出物の完成度	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	海外協働研修Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告会発表が参考となる。				
担当教員					
到達目標					
・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。 ・英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, 一定のコミュニケーションを図ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。自国の文化について, 簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について, 紹介できない。
評価項目2	英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, 一定のコミュニケーションを図ることができる。		英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, ある程度コミュニケーションを図ることができる。		英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使ったコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	グローバル化が叫ばれている現在, 海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流プログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, 国際的な視野の涵養, 異文化に対する意識の向上, 学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校が実施する国際交流プログラムの他, 他機関主催の海外派遣プログラムなどにおいて, 研修先で用意された研修内容を体験することになる。 なお, 研修先においては各自が目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校主催の海外派遣に対する事前準備 (研修内容の習得のために必要な英語能力および派遣国に関する基礎知識を身に備えるなど, 積極的な準備活動が必要である。 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中, 英語および, 日本文化, 世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては, 海外研修で求められる英語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング, スピーキング練習をすること。海外派遣国に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては, 海外研修を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 夏季休業期間中もしくは学校に認められた期間 2. 実施期間 5 日間以上および合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 (国外) 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」を提出する。 研修報告会 (10月頃予定) において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる ・英語をはじめとする, 母語以外の外国語を使って, 一定のコミュニケーションを図ることができる	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			

後期		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	グローバルチャレンジ
科目基礎情報					
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts				
担当教員					
到達目標					
1. 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現する練習をすることができる。 2. 特別講演や異文化交流プログラムおよび英語コミュニケーション集中講義などを通じて、グローバル社会に対する理解を深めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
グローバルコミュニケーションスキル	積極的かつ流暢な英語でコミュニケーションをすることができる。		英語で概ねコミュニケーションをすることができる。		英語でコミュニケーションをすることができない。
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。		異文化理解に対して高い意識をもっている。		異文化理解に対する意識が不十分である。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	グローバル教育センターが主催するイベント（特別講演会、国際交流報告会、異文化理解セミナーなど）に参加し、英語での講演聴講を通じて、諸外国の文化や現代世界の社会的諸課題について学び、グローバルエンジニアに必要な教養を身につける。				
授業の進め方・方法	グローバルエンジニア育成を目的とする特別講演会、国際交流報告会、異文化理解セミナーの他、英語コミュニケーションに特化した集中講義等へ積極的に参加し、毎回の学習内容についてアンケートおよびコメントカードを作成すること。				
注意点	関連科目：英語科目のみならず、世界史、世界文化、現代社会全般について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：基礎的な英語コミュニケーション能力と、外国の文化やグローバル社会の課題に関する学ぶ積極的な学習態度が必要となる。 異文化に対するオープンマインド、基礎的な英語コミュニケーションのフレーズを事前に習得するなど、積極的な取り組みが求められる。 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：各講演やイベントに参加するための基礎知識を事前に習得すること。基礎的な英語コミュニケーションの練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各講演やイベントを通じて学んだ知識と教養に関して、英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	後期集中開催（以下のイベント内容参照）	各イベントに伴う内容を理解し、実用的な英語表現の練習およびコメントカードを作成することができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週	イベントの開催情報については学生課グローバル掲示板およびグローバル教育センターHPに随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板とHPを確認すること。 単位認定に関してグローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。	英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で表現することを学ぶことができる。 諸外国の歴史や文化、現代社会の課題について幅広い事前調査をすることができる。	
		2週	令和2年度第1回異文化交流会 ＊留学経験者との交流会	異文化について理解を深めることができる。	
		3週	令和2年度第1回国際交流報告会	国際文化を通じて学んだ知識を共有することができる。	

		4週	令和2年度第1回特別講演会 *招待講演：英語コミュニケーション能力の向上について	英語コミュニケーション能力を高める学習法について理解することができる。
		5週	令和2年度第1回異文化理解セミナー	異文化に対する柔軟なマインドを育成することができる。
		6週	英語コミュニケーション集中訓練① *100 English Conversations Practice	基礎英会話フレーズに関する集中訓練ができる。
		7週	英語コミュニケーション集中訓練② *100 English Conversations Practice	基礎英会話フレーズに関する集中訓練ができる。
		8週	グローバルウェビナー参加①	アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
	4thQ	9週	グローバルウェビナー参加②	アンケートおよびコメントカードを作成することができる。
		10週	令和2年度第2回異文化交流会	異文化について理解を深めることができる。
		11週	令和2年度第2回特別講演会 *招待講演：地球環境問題とグローバルマインドについて	地球環境問題とグローバルマインドについて理解することができる。
		12週	Intensive English Communication Skills Training ①（集中講義）	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		13週	Intensive English Communication Skills Training ②	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		14週	Intensive English Communication Skills Training ③	学んだ英会話フレーズを活用することができる。
		15週	派遣留学生成果報告会&留学生交流会	留学を通じて学んだ知識と経験を共有することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		参加活動報告	完成度	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	グローバルエンジニアスキル	
科目基礎情報							
科目番号	0016			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP) (ベーシックコース)			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	Barnaby Newbolt (著) Climate Change						
担当教員	Leigh McDowell						
到達目標							
The ability to use English technical terms, mathematical formulas, units, etc. to freely conduct basic communication in English while working in a specialized field.							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Reading Skills		Understand the contents of the text accurately.		There are some mistakes, but can understand generally.		Many errors and poor understanding.	
Expression		Express your own ideas accurately.		There are some mistakes, but can express your own ideas generally.		Many errors and difficult to express your own ideas.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	When working as an engineer or researcher in the science and technology field in the future, it is necessary to smoothly communicate in English. In this lecture, students will learn English vocabulary related to science and technology and related English expressions, and will also be able to express their ideas logically in English on a given topic through individual / pair / group work.						
授業の進め方・方法	Work on language activities focusing on Speaking and listening. Discuss a given topic in pairs or groups to improve their English speaking skills.						
注意点	In order to achieve the above goal, students are required to review the text and review the lessons of the class, and actively engage in English learning. 学習指針：地球環境問題に関する知識と理解力が求められる。 関連科目：グローバルチャレンジ、異文化交流、英語科科目 事前学習：英語ネイティブの発音を聞く練習を行うこと。授業で学ぶチャプターの英単語を事前に調べること。 事後展開学習：授業で学んだ内容を理解し、本文の英文音読を行うこと。各話題について英語で意見を述べること。						
学修単位の履修上の注意							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Guidance		Explain the contents of the course, how to proceed, and marking policy.		
		2週	Keywords for the topic		Learn the outline and keywords of the textbook.		
		3週	Chapter1: What is climate change?		Understand the contents of Chapter 1 and discuss them in English.		
		4週	Chapter2: How does our climate work?		Understand the contents of Chapter 2 and discuss them in English.		
		5週	Chapter3: Getting warmer		Understand the contents of Chapter 3 and discuss them in English.		
		6週	Chapter4: Wetter – and drier		Understand the contents of Chapter 4 and discuss them in English.		
		7週	Chapter5: Extreme weather		Understand the contents of Chapter 5 and discuss them in English.		
		8週	Chapter6: Slow or sudden change?		Understand the contents of Chapter 6 and discuss them in English.		
	2ndQ	9週	Chapter7: How bad will it get?		Understand the contents of Chapter 7 and discuss them in English.		
		10週	Chapter8: Is it all bad?		Understand the contents of Chapter 8 and discuss them in English.		
		11週	Chapter9: Carbon		Understand the contents of Chapter 9 and discuss them in English.		
		12週	Chapter10: What are our governments doing?		Understand the contents of Chapter 10 and discuss them in English.		
		13週	Chapter11: What can you do?		Understand the contents of Chapter 11 and discuss them in English.		
		14週	Review		Understand the contents of Chapter 1~11		
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		Weekly Assignment		Class Participation		合計	
総合評価割合		80		20		100	
基礎的能力		80		20		100	